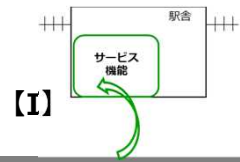


# ⑭尾道駅

駅まち再構築  
のポイント



## ● 駅まち再構築のポイント

### 課題 増加する観光客の受入拠点の不足

- 古くからのみなとまちとして豊富な観光資源があることに加え、しまなみ海道のサイクリストが増加する中、受入拠点としての機能が不足



### 解決策 [I] サービス機能を駅空間に集約

- 駅空間における地域観光拠点となる公益的施設（観光案内施設、レンタサイクル等）の整備による機能強化



尾道駅前



観光案内所



ホステル



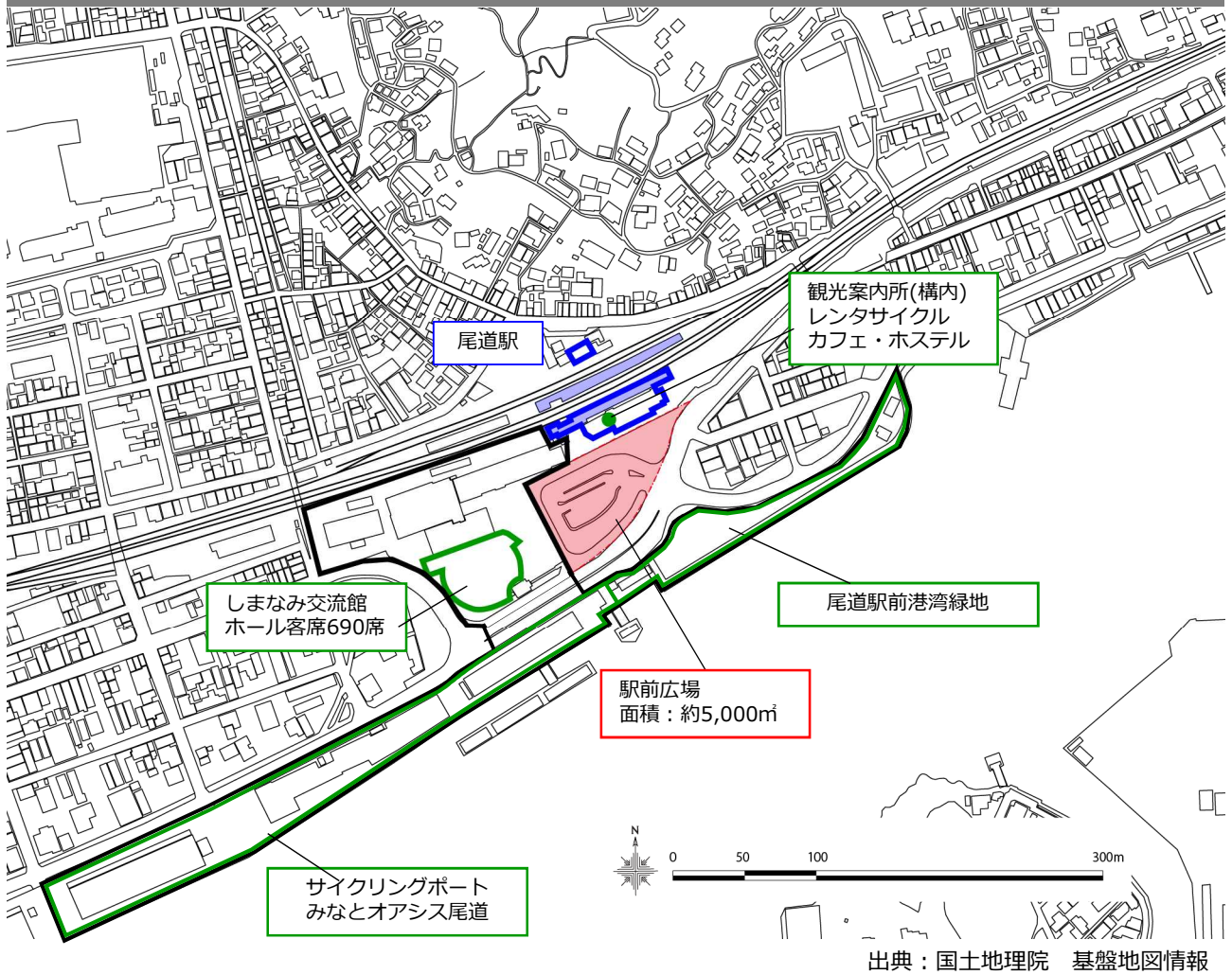
レンタサイクル

出典：広島県総務局広報課ウェブページ

## ● 「空間の共有」と「機能の連携イメージ」

機能	空間	駅まち空間				周辺市街地
		駅空間		駅前空間		
		改札内	改札外	駅前広場	駅広隣接地区	
交通空間	乗降機能 交通結節機能					
環境空間	交流機能 防災機能				尾道駅前港湾緑地 しまなみ交流館	
	都市環境 形成機能	駅空間に地域拠点施設を設置				
	サービス機能	観光案内施設 展望デッキ ホステル レンタサイクル等			サイクリングポート みなとオアシス尾道 (しまなみ海道サイクル拠点)	

● 駅周辺地図



凡例 (✓がついているものが該当)

<b>駅前空間</b>		<b>駅空間</b>	
✓ 駅前広場等 (都市計画決定区域)		✓ 駅施設 (駅ビル含む)	
駅前広場等 (都市計画決定なし)		✓ 改札内空間	
歩行者デッキ		駅前広場・駅広隣接地区へ拡張した範囲	
駅広隣接地区・駅空間へ拡張した範囲		<b>周辺市街地</b>	
✓ 駅広隣接地区 (連携し整備した地区) ※駅広隣接地区で各施設の機能強化が図られた地区		✓ サービス機能・シンボルロード等	
		✓ 建物内に設置されたサービス機能	

● 基礎情報

所在地	広島県尾道市	自治体人口	13.6万人 (2019年12月31日)
乗り入れ路線	1線 ・ JR西日本 山陽本線	乗降客数	1.1万人/日 (2017年度)

● 駅まち再構築の実現における工夫

■ 駅舎内（ラチ外）に地域周遊の拠点となる施設（観光案内所・レンタサイクル・ホテル等）を整備する

- 2018年度から西日本旅客鉄道株式会社の「TWILIGHT EXPRESS 瑞風」が尾道駅に停車することや、瀬戸内しまなみ海道開通により、国内外からサイクリング等を目的に来訪者が増加していることから、交流・賑わいの場となる新拠点として民間事業者（JR西日本）主体で2019年にリニューアルした。
- 駅舎内に観光案内所・レンタサイクル・ホステル・展望デッキ・カフェ等を備え、“ローカルの駅”を楽しめる施設として、地域の魅力を発信している。
- 尾道駅と尾道のまちをつなぐ情報サイト「おのえき」を尾道駅運営協議会（西日本旅客鉄道株式会社、（一社）尾道観光協会、株式会社ジェイアールサービスネット岡山、TLB株式会社）で運営し、尾道市と共催でイベントを開催するなど、街のにぎわい向上に取り組んでいる。
- 駅舎の南側に広がる緑地は、日本遺産としての尾道水道の景観が楽しめるとともに、イベント開催等地域交流の場としても活用している。
- 2012年6月に「歴史的風致維持向上計画」の認定を受け、「尾道・向島歴史的風致地区」として、斜面を活かした旧市街地の歴史的なまちなみや重要文化財等の建造物を保存する事業や、空き家再生促進などの良好な市街地の環境や景観の保全・形成に資する事業を展開している。
- 併せて尾道市では「尾道地区都市再生整備計画」を策定し、歩行者だけでなくサイクリストも旧市街地を回遊してもらうための工夫として、市街地の賑わいの再生を図るため、観光地となる広場や道路の高質化、回遊の起点としての駅前公園の機能強化に取り組んでいる。



駅舎外観

駅舎2階の展望台

出典：広島県総務局広報課ウェブページ

事業の概要

尾道駅建替え工事（JR西日本事業「せとうちパレットプロジェクト」）	
整備内容	観光案内施設、展望デッキ、ホステル、ショップ レンタサイクル、カフェ、レストラン、コンビニ
整備主体	JR西日本 ジェイアールサービスネット岡山
管理主体	JR西日本 ジェイアールサービスネット岡山 TLB株式会社（ホステル）、（一社）尾道観光協会（観光案内所）

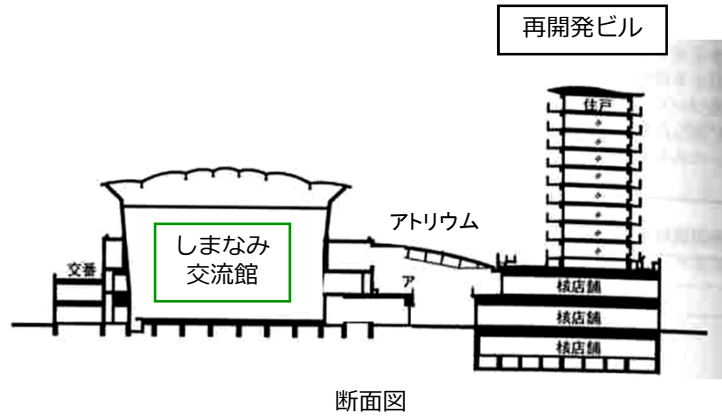
## ● 駅まち再構築の経緯

- 尾道駅は1891年開業以降、数度改装を経てオレンジ屋根が特徴的な駅舎として地域に親しまれていたが、2019年に耐震補強を兼ねた建替え工事を行いリニューアルした。
- リニューアル後は、地域の魅力発信、地域・観光客の交流・にぎわいの場として愛される新拠点として、列車の乗客でなくても立ち寄りことのできる店舗等を含めて魅力向上に努めている。
- 尾道駅前地区は、第一種市街地再開発事業（1996年都市計画決定、2000年事業完了）により再開発ビルとしまなみ交流館（ホール・大会議室等）が整備されており、駅まち地区の賑わい創出に寄与している。

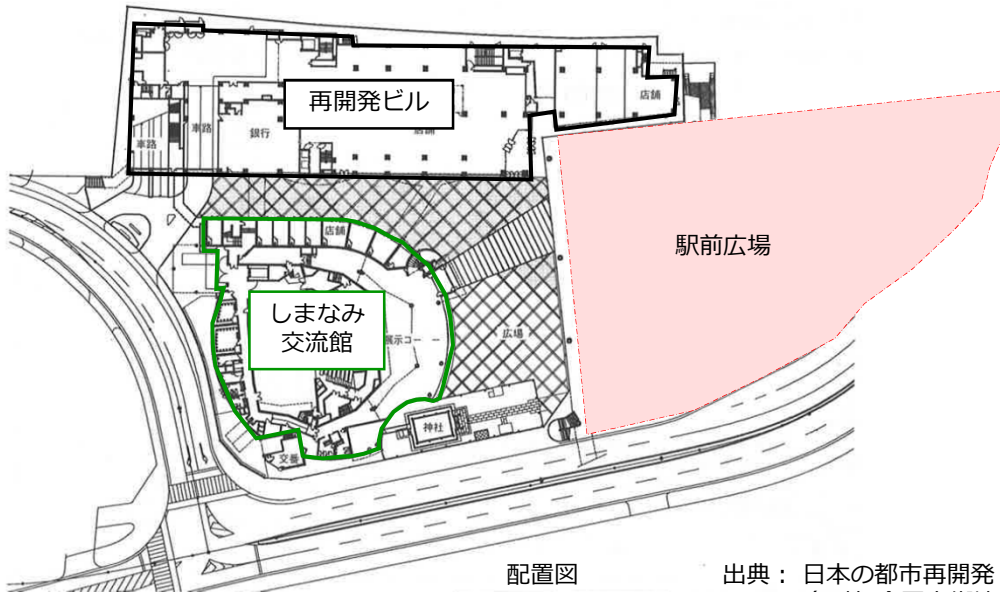


しまなみ交流館

出典：尾道市ウェブサイト



断面図



配置図

出典：日本の都市再開発5  
(一社)全国市街地再開発協会  
に文字等を追記

### 経緯

年度	1996	1998	2000	2002	2004	2006	2008	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022
上位計画							歴史的風致維持向上計画					都市計画マスタープラン		
									●			●		
												●	都市再生整備計画	
都市計画 (基盤)	第一種市街地再開発事業、高度利用地区、都市計画道路													
事業	市街地再開発事業 街路事業											駅舎 リニューアル		

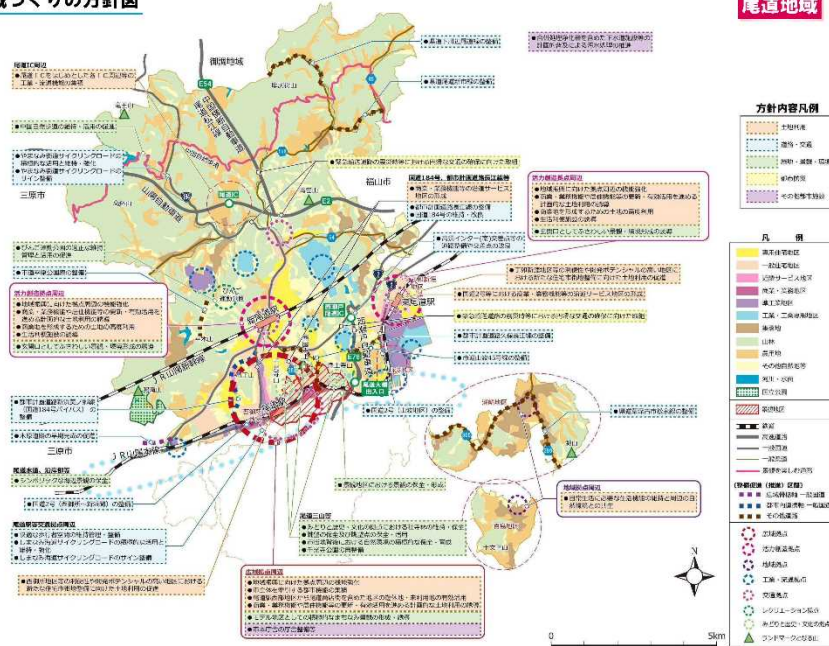
● 上位計画

■ 尾道市都市計画マスタープラン

尾道駅周辺は「広域拠点」とされており、下記の方針を定めている。

- 地域振興に向けた拠点周辺の機能強化
- 市全体を牽引する都市機能の集積
- 尾道駅西部地区から尾道商店街を含めた地区の遊休地・未利用地の有効活用
- 商業・業務機能や居住機能等の更新・有効活用を進める計画的な土地利用の誘導
- モデル地区としての積極的なまちなみ景観の形成

地域づくりの方針図



コラム 駅空間に公益的施設を設置した事例：由布院駅

◆ 由布院駅

- 設計 磯崎新、内装 水戸岡鋭治による木造駅舎は由布院の街並み景観を創出している。
- 構内には待合室を兼ねたアートギャラリーを備えている。
- ホームには有料の足湯が設置されている（駅窓口で足湯券の購入が必要）。
- 平成28年から「滞在型・循環型保養温泉地計画」を推進し、由布院地区における居住環境の改善と質の向上、観光交流者の滞在時快適性の向上や心の癒しに寄与することを目的に駅前広場に隣接した「由布市ツーリストインフォメーションセンター」を整備した。



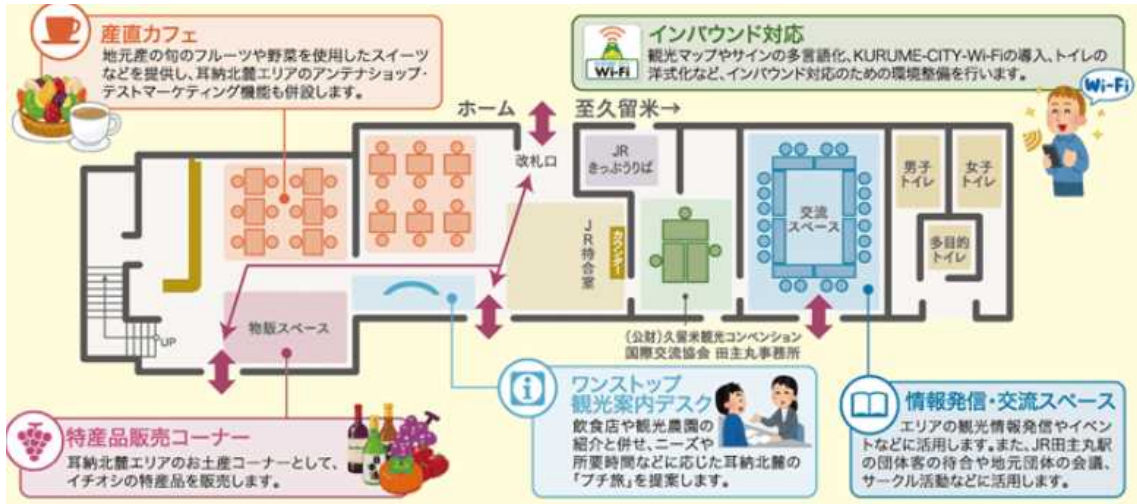
出典：(一社)由布院温泉観光協会ウェブページ  
(公社) ツーリズムおおいたウェブページ

● 基礎情報

所在地	大分県由布市	自治体人口	3.4万人 (2019年12月31日)
乗り入れ路線	1線 JR九州 久大本線	乗降客数	2,172人/日 (2018年度) (乗車客数×2)

◆田主丸駅

- ・ふるさと創生資金を利用して建てられた「かっぱ」をイメージした駅舎
- ・久留米市がJR九州から土地を借用し、1992年に整備した。
- ・久留米観光コンベンション国際交流協会が業務を請け負う簡易委託駅で、観光案内デスクや産直カフェも設置されている。



出典：（公財）久留米観光コンベンション国際交流協会ウェブページ

●基礎情報

所在地	福岡県久留米市	自治体人口	1.9万人（2019年12月31日） ※田主丸町
乗り入れ路線	1線 JR九州 久大本線	乗降客数	1,174人/日（2018年度） （乗車人員×2）

◆郡家駅

- ・街の玄関口、新たな観光拠点施設としてコミュニティ施設（交流スペース、展望スペース等）を合築した（2015年3月「ぶらっとびあ・やず」として開業）



出典：八頭町観光協会ウェブページ



出典：鉄道建築協会

整備内容	コミュニティ施設
整備主体	八頭町
管理主体	JR西日本 八頭町 (指定管理： 八頭町観光協会)

●基礎情報

所在地	鳥取県八頭郡八頭町	自治体人口	1.7万人（2020年2月1日）
乗り入れ路線	2線 JR西日本 因美線 若桜鉄道	乗降客数	2,029人/日（2017年度）